

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	言語と宗教経験 : 言語社会学の一課題
Author(s)	橋内, 武
Citation	ニダバ , 4 : 51 - 53
Issue Date	1975-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00050967">https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00050967</a>
Right	
Relation	



# 言語と宗教経験 —— 言語社会学の一課題 ——

橋 内 武

## 1 宗教の言語社会学

言語社会学（ないしは社会言語学）の課題と言えば、言語と社会構造とか二重言語生活とかがよく取り上げられているけれども、言語と宗教経験の関連を考えることもこの新興科学の一課題であろう。宗教を扱う学としては、各宗教・宗派毎にその教義などを明らかにする宗学や神学（とくに教理学）があり、宗教一般を論ずるものとして宗教哲学、宗教心理学、宗教社会学などが既に学問領域として確立してはいる。（小口偉一・堀一郎監修『宗教学辞典』東大出版会 1973の「宗教学」の項参照）しかし、言語社会学の立場からも宗教の一側面を促えることができると考える。これを「宗教の言語社会学」と呼ぶことにする。

話の前提としていくつかことわっておかなければならないことがある。言語社会学の立場から論じる場合には、

- (1) 特定の宗教・宗派を擁護する立場はとらない。信仰と科学とは峻別されるべきである。
- (2) 宗教も言語も社会現象として捉える。
- (3) 「宗教の言語」と言った時、それは、教典や聖典に現われるコトバだけではなく、聖職者や信者らの営む宗教生活の中で使われているコトバ全てを対象とするのである。
- (4) そのため、書きことばと話しことばの双方を含むのである。

宗教一般に現れる言語現象を問題とする(A)か、特定の（又はいくつかの）宗教に現れる言語現象に注目して、各々の宗教・宗派（の言語）の性格を明らかにしていく(B)か、2つの道が考えられるが、前者(A)が宗教一般の言語社会学であり、後者(B)が個別宗教の言語社会学となる。

研究の目標が、宗教生活の場で使われる言語そのものの記述にある場合と、言語の形式や用法を手がかりにして、その言語を使っている宗教集団の性格を明らかにすることを目標とする場合がある。前者の方がより言語学的であり、後者の方がより社会的である。

## 2 宗教の言語 —— キリスト教を例にして

さし当り「宗教の言語」という見出しの下に考えられるのは、次の3つの研究課題である。

- (1) 宗教的言語使用域 (religious register)
- (2) 宗教的談話 (宗教的文章) の構造 (structure of religious discourse)
- (3) 宗教的恍惚状態における音声言語 (ecstatic speech)

(1)については様々な宗教に当って、言語が古風であるか、現代的であるか、堅苦しい感じがするかうちとけた感じがするか、韻文的であるか散文的であるか、神秘的であるか非神秘的であるかを考えてみなければなるまい。(2)については、キリスト者の行方「お祈り」の構造(「始め」「中」「終り」)を分析することは、今すぐ手を付けられる課題だろう。(3)については、カトリックのペンテコステ運動やファンダメンタリストの間で今日流行している「異言」を語る人々に注目しなければならぬし、我国には昔からある「神憑り」やシャーマニズムについても考察しなければなるまい。

各宗教集団毎に言語の差異が見られれば、それを手がかりにしてその集団(の性格)を他と区別できるわけである。プロテスタント(日本基督教団を代表とする)とカトリックとの間にある言語上の違いは、誰でも気付くものである。(マタイ/マテオ、ヤコブ/ヤコボ、ミコ/オンコ、イエス/イエズス等の違いの他、主の祈りや讃美歌・聖歌の類を比較せよ。)同じプロテスタントでもバプテストやセブレスディアドベントストなどは、祈りの最中興奮気味となり、エッサマやアーマンを連発し、あたかも御子キリスト(あるいは神)と身近に直接交信しているかのような行動を示す。

以上、主にキリスト教を事例に引きながら述べたが、「神々のラッシュアワー」と評されるほど諸宗教(既成宗教、新宗教、民間宗教)の入り乱れる国柄ゆえ、我国の「宗教の言語社会学」は前途洋々たるものである。

### 3. References (in English)

#### A. Books and articles on glossolalia:

Benner, P. 1973. "The Universality of 'Tongues'," *The Japan Christian Quarterly* 39-2.

Burling, R. 1970. *Man's Many Voices: Language in its Cultural Context*. New York: Holt, Rinehart & Winston. 151-153.

Goodman, F. 1972. *Speaking in Tongues: a Cross-Cultural Study of Glossolalia*. Chicago: The University of Chicago Press.

Samarin, W. 1972 a. *Tongues of Men and Angels*. New York: Macmillan Company.

Samarin, W. 1972 b. "Variations and Variables in Religious Glossolalia," *Language in Society* 1-1: 121-130

- B. Most issues of the *International Journal of the Sociology of Language* (edited by J. Fishman, Mouton, three times a year) will be devoted to specific topics in sociolinguistics including language and religion.
- C. An Interest-Group Session: Sociolinguistics and Religion, The 23rd annual Georgetown University Round Table, March 16-18, 1972. Reported by Samarin, W. *Monograph Series on Languages and Linguistics* 25. 1973. 335-337.
- D. Charles Ferguson's Language and Religious Experience, a course offered at the 1973 Linguistic Institute, the University of Michigan, Ann Arbor:
- (1) Religious register
  - (2) Forms of religious discourse
  - (3) Glossolalia or speaking in tongues.
- See the catalogue of the Institute.